

ミャンマーで日本式技能者の教育を実施

JICAのODA事業をKNDコーポが受託、ものづくり大が教育指導

ミャンマーにおいて、今年1月から3カ年の日程で日本式の建築技能者の育成が行われている。国際協力機構(JICA)が政府開発援助(ODA)として実施する「ミャンマー国建築技能訓練校設立運営及び技能認証制度の普及・実証事業」だ。㈱KNDコーポレーションがものづくり大学の協力を得てプロポーザル提案し、受託した。業務受託事業者のKNDコーポレーションは訓練校運営監理、ものづくり大学は訓練校運営企画コンサルタントと教育指導を担当し、2016年12月から19年7月31日の契約期間で、建築技能者の育成と資格認証業務を行っている。

教育の内容は、ビルディングや木造建築における日本式の施工管理技術と高度な技能の習得を目指すもので、ミャンマーでの現場施工に日本式の手法を採り入れることが21世紀のASEAN圏での日本のゼネコンやサブコンの進展の一助となり、ミャンマー国内の日系企業にも有意義であると確認することを目的としている。

講習を実施する施設は、ヤンゴン市のミャンマー国建築技能訓練校「スキルズトレーニングセンター」。カリキュラムは全5期から成り、そのI期(2017年1月19日～3月10日)はSite EngineerおよびSupervisorの技術・技能力底上げを図るための「マネジメントコース」として行われた。ミャンマーで同事業によって育成された人材を活用しようとする現地のゼネコンからの要望と、技能訓練コースが始まる前に現地人講師を養成しておくことを狙いとしたもの



▲「左官・レンガ」コースの実習



▲「木造建築」コースの実習



▲座学のもよう



▲修了証の授与

で、鹿島建設㈱、㈱竹中工務店、清水建設㈱、前田建設工業㈱、戸田建設㈱の技術者を講師に招き、ものづくり大学の教員、非常勤講師と共に座学の授業を実施、32名が修了した。

II期(2017年5月5日～8月30日)以降は、Supervisor(上級職長やSite Engineer等を目指す若手の技術技能者)を育成するための「技能訓練コース」に移行。「RC型枠・鉄筋」「左官・レンガ」「木造建築」の3コース(定員は各42名)に分かれ、各専門工事業のエキスパートであるものづくり大学の非常勤講師が実習を担当し、座学は同学の教員が非常勤講師と協働で行う。II期の修了者は103名だった。

9月5日～16日に掛けては、I期・II期コースを修了したミャンマー人講師や関係者らが研修のため来日。日本の建設現場やプレカット工場等

を見学すると共に、III期以降に向けてカリキュラムの見直しや調整などを行った。

今後は、同様の「技能訓練コース」をIII期(2017年11月1日から4ヶ月間)、IV期(2018年5月5日から4ヶ月間)、V期(2018年10月から4ヶ月間)に亘って実施する予定だ。終了後、同事業は労働省に移管され、運営されることになる。

日本側のカウンターパートナーの事業責任者を務めるものづくり大学の三原斉教授は、「修了生たちにはぜひ、ミャンマーの日系企業で活躍してほしい。そうならば両国にとってwin-winの関係になる。日本の技術は、ミャンマーにとって必要な部分と馴染まない部分があるとと思う。取捨選択しながらうまく活用して、日本の技術を広げてもらいたい」と話す。(次号以降で詳報)